

## 【日本科学者会議鹿児島支部・地域問題研究会報告】

### 公開講演会「紫尾山系の巨大風力発電計画を考える」が開催される

6月26日（土）の午後2時から鹿児島大学農獣医学部共通棟101号教室で、第6回地域問題研究会である標記の講演会が開催されました。講師は「紫尾山系の巨大風力発電計画を考える会」の手塚理一郎氏と「出水自然環境研究会」の神信裕氏の二人で、参加者は北薩の伊佐市や南さつま市、指宿市など県内各地からを含む38人でした。司会は事務局長の園屋高志氏が務めました。

野鳥の会鹿児島の副代表でもある手塚理一郎氏は次の3種類の資料を配布され、パワーポイントを使って話されました。その一つは「知っておきたい風車の問題点」でこの内容は1) 穏やかな暮らしの喪失、2) 豊かな自然の喪失、3) 環境より投資話かも、という全体で24項目にわたる資料です。二つ目は「長島の風力発電機の直近を天草方向へ北帰行する約40羽のマナヅルの群れ」というカラーの写真です。そして三つめは「考える会」発足以降の会の活動経過をまとめたもので、4回のシンポジウムの開催や県知事への要請や県議会への陳情を含むものです。

次の報告者で地質学を専門とする神信裕氏は「紫尾山の風力発電事業と斜面崩壊」と題する配布資料を中心にパワーポイントを使って話され、1997年に起きた「鹿児島県北西部地震による斜面崩壊」や紫尾山系の崩れやすい地質的特性について説明し、「大型建造物建設地として不適正」であることを主張されました。

二人の報告の後、活発な質疑応答がなされました。その中には「ツルやクマタカなど野鳥も大切だが人間の命や生活の方が重要ではないか」とか「風力に反対すると原発OKになるのではないか」などの質問や意見がありました。

最後に世話人の一人である筆者がこのテーマに関連し、低周波音被害などを扱った「日本の科学者」関連文献を紹介し、地域の主権者が主体となってこの問題に対応することの重要性に触れて会を終了しました。多くの市民とともにこの問題を考える良い機会であったと思います。

（地域問題研究会世話人・田島康弘）